

2

2021/FEB
誠美保育園

園からの便り ひぐらし

4つの習慣

先日みなさんと挑戦をした、オンライン会議アプリを使った「リモート保護者懇談会」。準備段階から、手探りで始めた試みだったのですが、いざ開催してみると、色々な発見がありました。

そのひとつは、お子さんもその傍にいたということ。小さなお子さんは、腕の中や膝の上に、少し大きくなると、このいつにない光景に少し興奮をして、さらに大きくなると、一緒にソファに腰を下ろし、画面の様子に真剣に耳を傾けている姿が、印象的でした。

早く対面をと、待ち望む声も聞かれた一方、時には子どもの横槍に笑い合いながら、みんなでゲームでもしているような、非日常を感じる楽しさがあった、との声もいただきました。

そして何よりも、互いにマスクと取って向き合えたことに、かつての日常に少し戻れたような、安堵感を覚えた時間でもありました。

さて、そのリモート会議アプリの画面に映る、当園のスライドにお気づきになったでしょうか。

「幼保連携型認定こども園せいび」

そこに書かれていたのが、来年度の、新しい園の名前です。子どもでも読めるように、「誠美」はひらがなにしてみました。少し長つたらしいので、電話などでは、「はい、『こども園せいび』です」と言うべきか、会話では、『せいび』では…となるのかと、今から考えを巡らしてはいるのですが、4月を越えても、思わず「保育園…」とこぼれる日々は続きそう。当分の間は、みなさんと互いの言い間違いを、指摘し合っていくことになりそうです。

「こども園」の「こ」は、国の表記に習い、ひらがなである点も…お忘れなく。

以前からお話ししていますように、4月からも、今と何も変わらない園生活が続いていきます。とはいえ、ひとつの節目となるこの機会に、これまで、当園で大切にしてきた「こんな園になりたい」

という思いを、あらためて、4つの言葉に込めてみました。

自治性あふれる園…皆で考える毎日を自分たちのことは、自分たちで決める…このことは、大人同様、子どもたちの生活にとっても、土台となる考え方です。自分たちの声が聞き取られ、その声が園生活を変えていく体験は、「自分の思考は、この世界のあり方を変えていく」という意味深い経験。それが、これからの社会創造を担っていくための、原動力となるのです。

そして、「聞き取られる」心地よさを経験した子どもたちは、次は、他者の声を「聞き取る」楽しさや喜びに、気づいていくはず。民主主義の基礎がここにあるのです。

審美性あふれる園…心を揺らす毎日を「審美」とは、本当の美しさを見極めること。その時の「美しさ」とは、綺麗である、整っている、といった目に見える形ばかりを言うのではありません。気持ちよいか、得度が知れないとか、

ぞくぞくするとか、不思議だとか…心を揺らす対象は、きつと全て「美しい」ものだと思うのです。これには、個人差もあるだろうし、普遍的なものもあるに違いないありません。

無駄なく合理的であることや、便利で機能的あること(機能美)も美しさであるし、理屈や損得を超えた、その人なりのこだわり方(美意識)もまた、美しさのひとつです。

それぞれが感じる意味や価値に、しっかりと心揺らしながら、その感動をみんなと分かち合おうと生きているか…そう問いながら、毎日を過ごしていきたいのです。

共感性あふれる園…面白がる毎日を

「なるほどねえ」と言われて、嬉しくない人なんていない。俗に「褒める」とも言いますが、自分の感動や考えに同意、賛同してくれることは、自分の存在価値を認めてくれたという証。

そうした互いの価値観を、みんなで楽しんでいく心地よさを、大切にしていきたいと思っています。

探求性あふれる園…やってみる毎日を乳幼児期は、世界と出会っていく毎日でもあります。あれ何、これ何と周囲の環境に触れ、その反応を確かめながら、この世界を知っていく…これがこの時期の仕事でもあるのです。

だから、挑戦が許される精一杯の環境を準備しなくてははいけない。好奇心さえ絶やさなければ、ずっと豊かに、人生を生き抜いていけるのだと思うのです。

そして、この4つのこと…「園」の文字を、「職場」や「地域」に置き換えながら、私たち大人も一緒に、毎日を生きてみたい…「こんな社会を作りたい」と、共に声をあげながら。

園長 折井誠司

編集 誠美保育園
編集人 折井誠司
発行人 折井誠司
印刷所 誠美保育園
発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12
電話 042-675-1551
ファックス 042-677-5643
E-mail seibi@nokuen.jp
http://nokuen.jp/